

「受刑者に対する釈放時アンケート」について（平成23年度分）

刑事施設の運営の実情に対する国民の理解を深めることを目的として、平成23年度に実施した「受刑者に対する釈放時アンケート」の集計結果を公表しますので、お知らせします。

1 内容

行刑改革会議の提言を受け、行刑行政の透明化、処遇環境の充実化等を推進するための一方策として、矯正局では、平成17年4月から、出所受刑者を対象として釈放時アンケートを実施しています。

釈放時アンケートは、受刑者の釈放時の感想等を集計し、刑事施設の適正な運営を図るための資料として活用するとともに、その結果を公表し、刑事施設の運営の実情に対する国民の理解を深めるための資料として活用するものです。

2 調査期間

平成23年4月1日から平成24年3月31日

3 対象者

28,325名（男子：26,057名、女子：2,268名）

※上記の期間中に、刑事施設を満期釈放又は仮釈放となった受刑者

4 有効回答数（回答率）

25,233名（89.1%）

（男子：23,249名（89.2%）、女子：1,984名（87.5%））

※対象者のうち、アンケートの実施を拒否した者及び傷病等のためアンケートの実施が困難な者は除いた。

※1項目でも有効な回答があれば有効回答数に計上している。

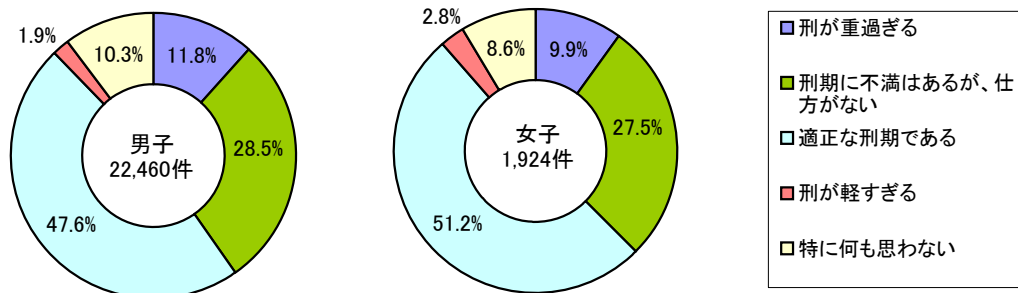
5 結果

アンケート集計結果は次のとおり。

なお、アンケート結果の図表の構成比は四捨五入したために、構成比の和は100.0%にならない場合がある。

<注> 本集計結果において、「男子」は、男子刑務所、医療刑務所及び拘置所を出所した者、「女子」は、女子刑務所を出所した者のことである。

1. 今回受刑することになった裁判の結果について、どのように思っていましたか。一つ選んでください。



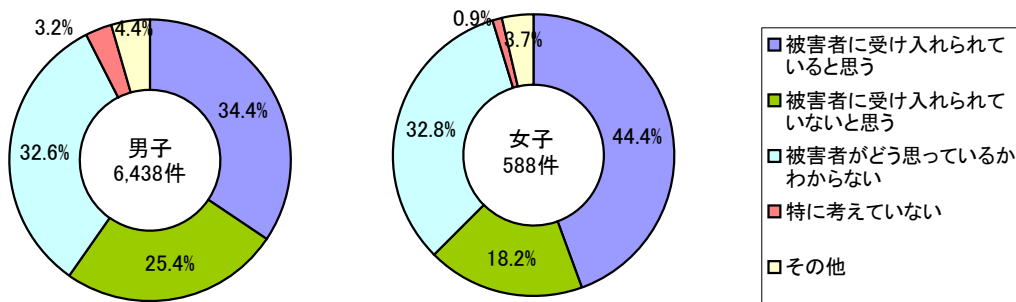
裁判結果について、「適正な刑期である」とする回答は、男子47.6%、女子51.2%と約半数を占め、「刑が重過ぎる」または「刑期に不満はあるが、仕方がない」とする回答は、男子40.3%、女子37.4%であった。

2. 今回受刑することになった犯罪に被害者(その家族を含む。)がいる人に聞きます。

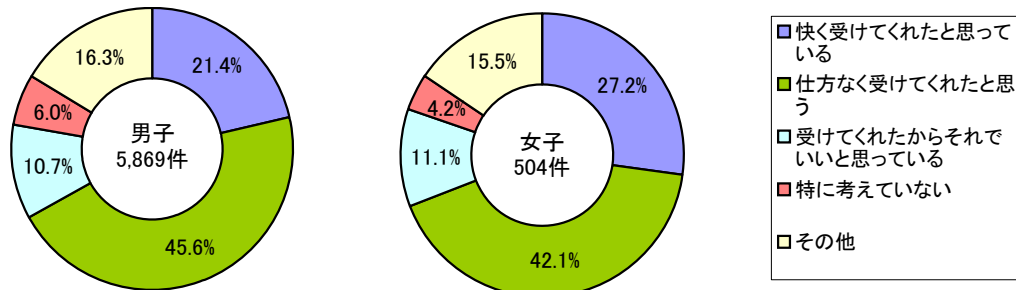
(1) 謝罪、被害弁償等を済ませている人に聞きます。被害者はどのように感じていると思いますか。

それぞれ一つ選んでください。

ア 謝罪について



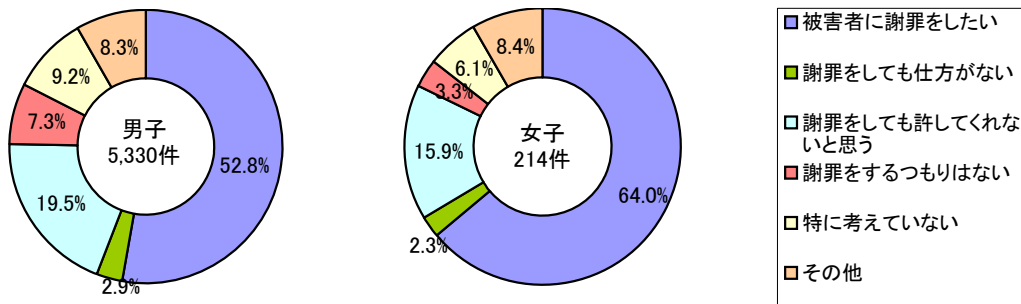
イ 被害弁償等について



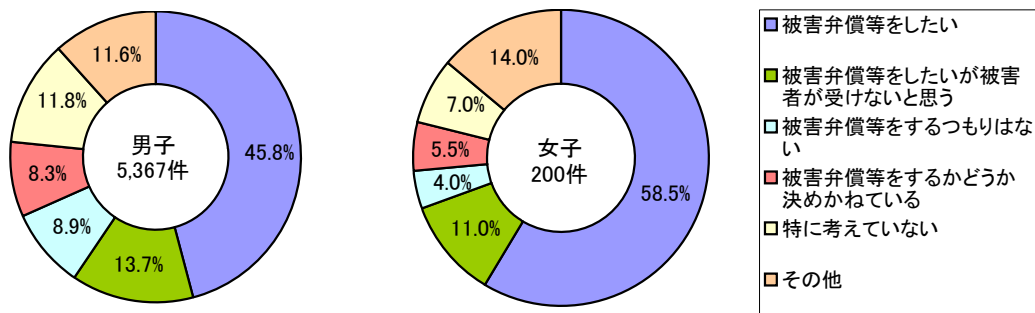
(2) 謝罪、被害弁償等を済ませていない人に聞きます。謝罪、被害弁償等についてどのように考えていますか。

それぞれ一つ選んでください。

ア 謝罪について



イ 被害弁償等について

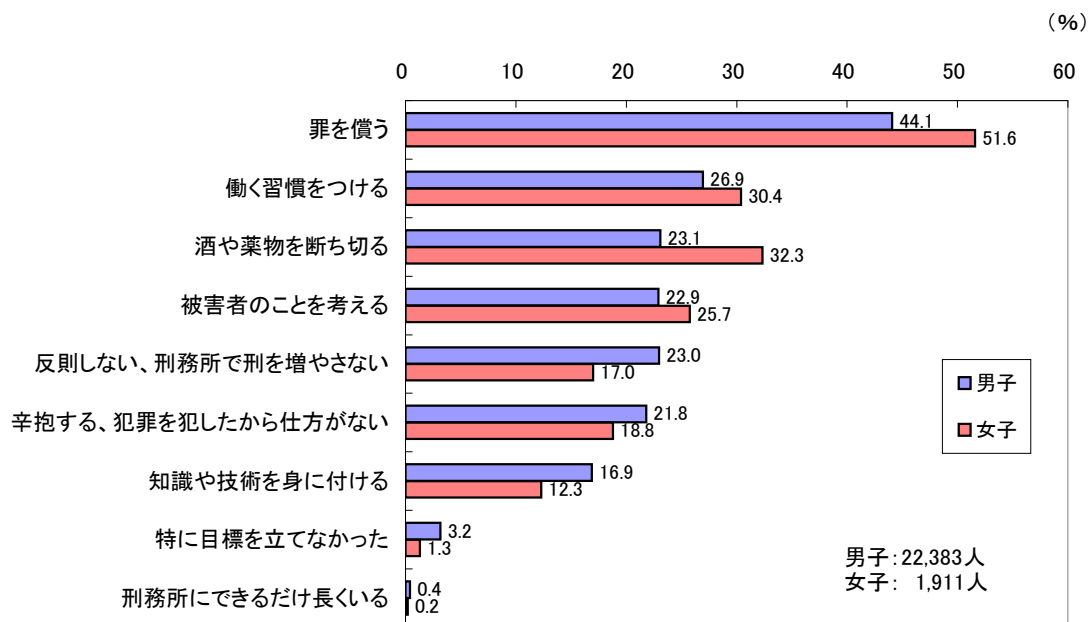


被害者への謝罪、弁償等を済ませている人に対し、被害者が謝罪についてどのように感じていると思うか質問したところ、男子と女子ともに「被害者に受け入れられていると思う」が最も高い割合を占めていた。被害弁償等については、「仕方なく受けてくれたと思う」との回答が男子は45.6%、女子は42.1%と最も高い割合だった。

被害者への謝罪、弁償等を済ませていない人に対し、謝罪について質問したところ、「被害者に謝罪をしたい」が最も高く、男子は45.8%、女子は58.5%であった。

被害弁償等については、「被害弁償等をしたい」が最も高く、男子は39.2%、女子は43.3%であった。

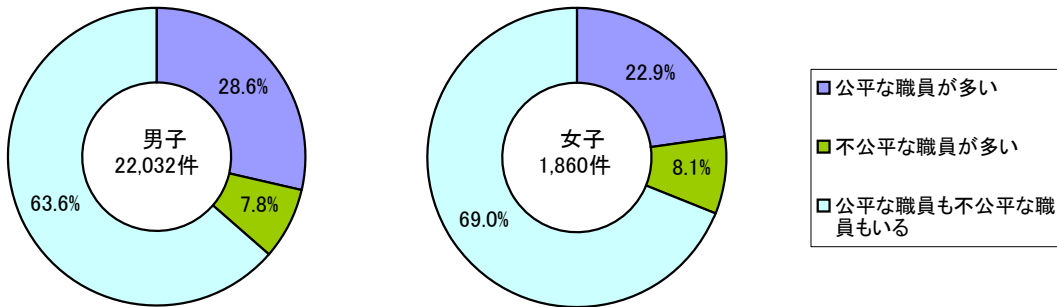
3. 受刑における目標(二つまで回答)



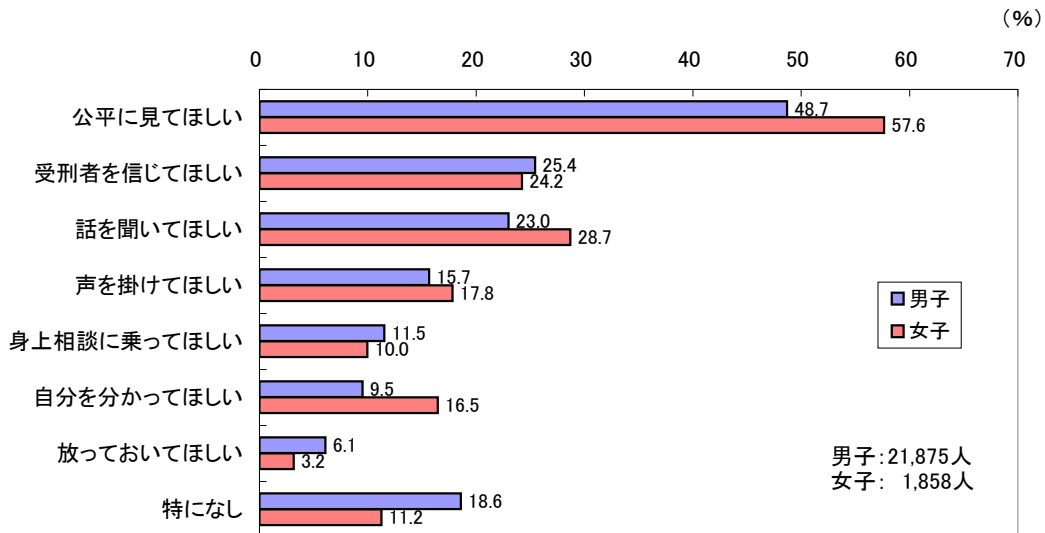
受刑における目標として「罪を償う」とする回答を選択した者が男女とも最も多く、男子44.1%、女子51.6%であった。男子は、次いで「働く習慣をつける」、「酒や薬物を断ち切る」の順で多く、女子は、「酒や薬物を断ち切る」、「働く習慣をつける」の順で多かった。

なお、「特に目標を立てなかった」は男子3.2%、女子1.3%、「刑務所にできるだけ長くいる」も男子0.4%、女子0.2%と、わずかだが見られた。

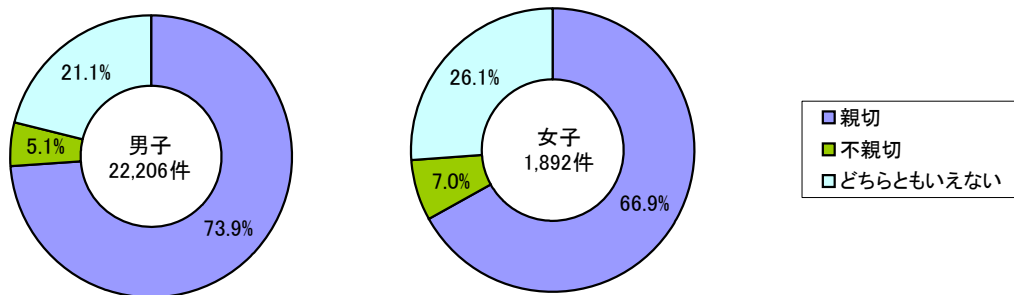
4. 職員について聞きます。
 (1) 職員全体の公平さについて



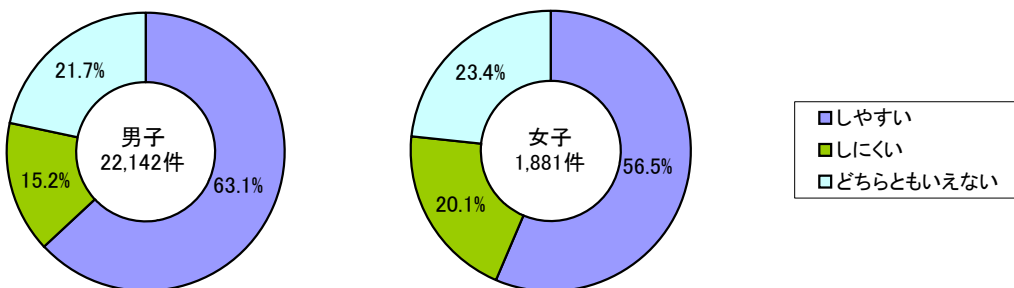
(2) 職員に望むこと(二つまで回答)



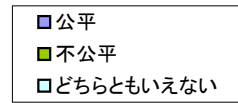
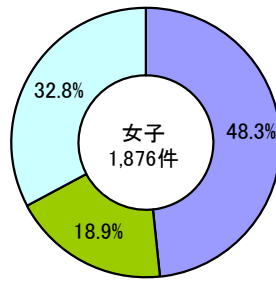
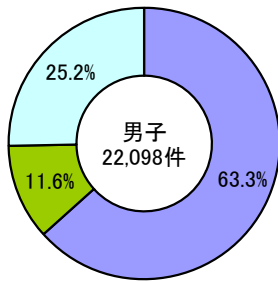
(3) あなたを一番長く担当した職員についてどのように感じましたか。それぞれ一つずつ選んでください。
 ア 親切さについて



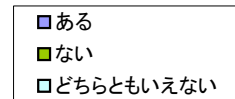
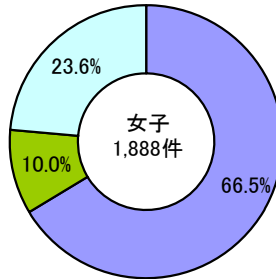
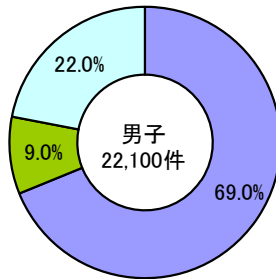
イ 相談しやすさについて



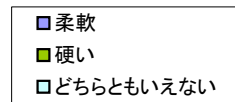
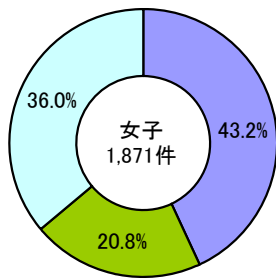
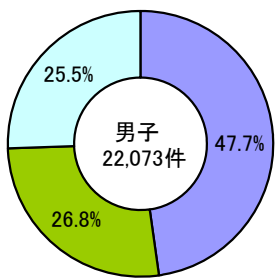
ウ 公平さについて



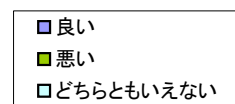
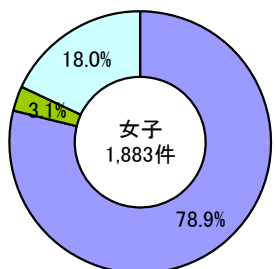
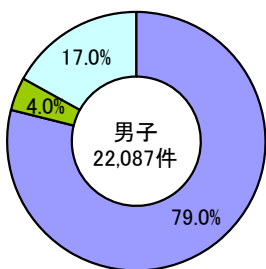
エ 信頼感について



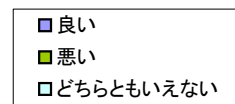
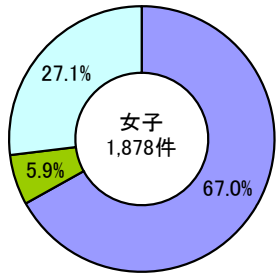
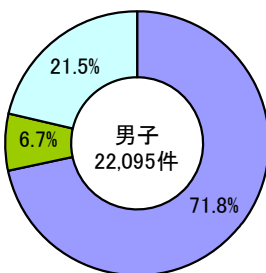
オ 考え方について



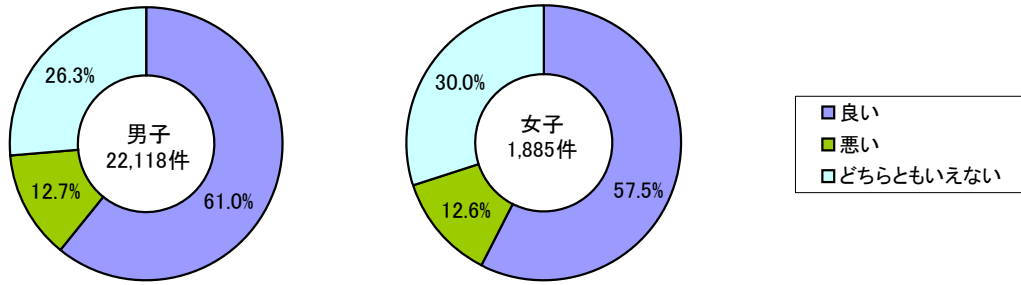
カ 勤務姿勢について



キ 態度について



ク 言葉遣いについて



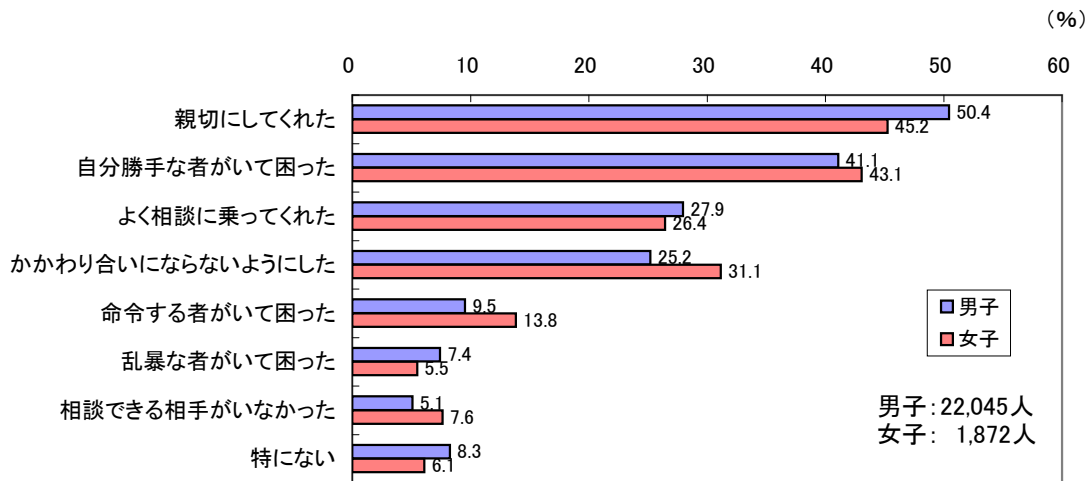
職員全体の公平さについて、「公平な職員が多い」という回答の割合は、男子28.6%、女子22.9%だったのに対し、自分を一番長く担当した職員の公平さについては、「公平である」とする回答の割合が、男子63.1%、女子48.3%であった。

また、「担当職員の勤務姿勢は良い」とする回答は男女とも8割近くの者が「良い」を選択しており、「担当職員は親切だ」、「担当職員に対する信頼感はある」、「受刑者に接する態度は良い」とする回答についても、6、7割を占めていた。「相談しやすい」「言葉遣いが良い」は6割の者が選択していた。

職員に望むこととしては、男女ともに「公平に見てほしい」が48.7%、57.6%と最も多く、続いて「受刑者を信じたい」、「話を聞いてほしい」とする回答が多かった。

なお、「放っておいてほしい」は男子6.1%、女子3.2%と最も少なかった。

5. 他の受刑者に対してどのように感じましたか。二つまで選んでください。

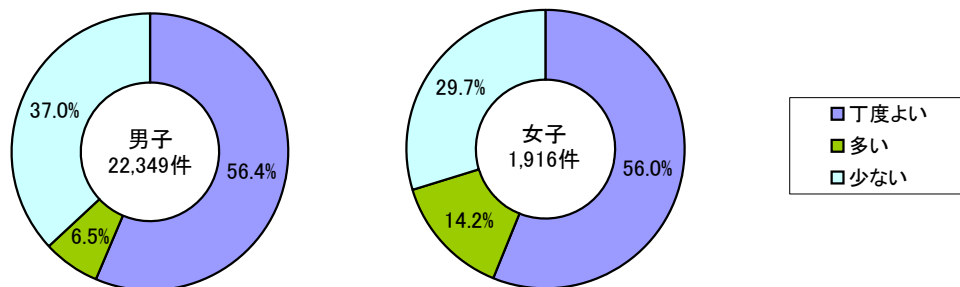


他の受刑者については、男子、女子ともに「親切にしてくれた」が50.4%、45.2%と最も多かったが、「自分勝手な者がいて困った」と回答する者も次いで41.1%、43.1%と多かった。

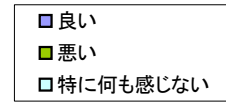
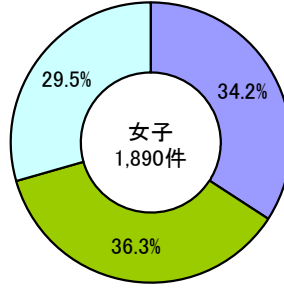
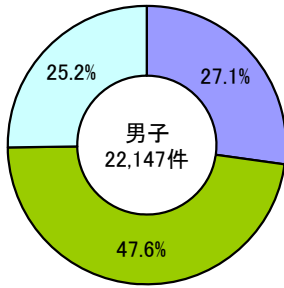
また、「よく相談に乗ってくれた」が男子27.9%、女子26.4%だったのに対し、「相談できる相手がいなかった」とする者は男子5.1%、女子7.6%だった。

6. 食事関係について。それぞれ一つずつ選んでください。

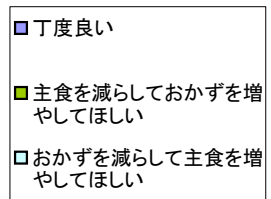
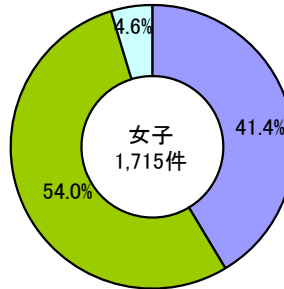
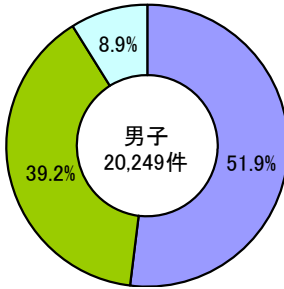
(1) 食事の量について



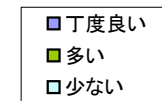
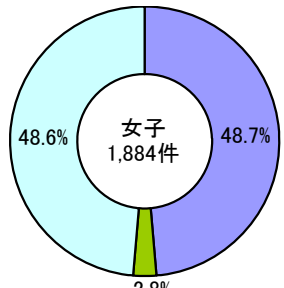
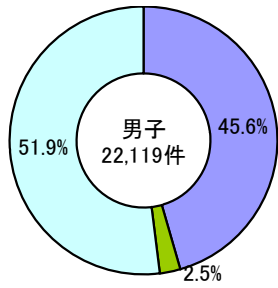
(2) 食事の質について



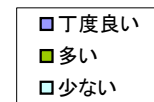
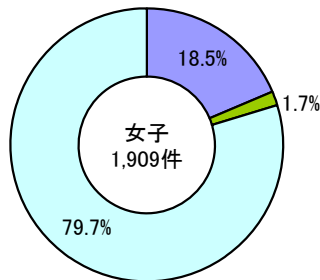
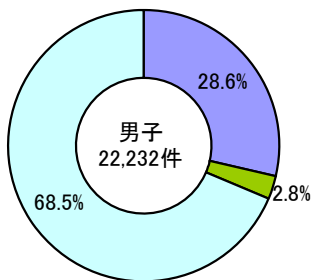
(3) 主食とおかずのバランスについて



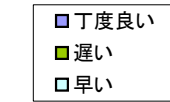
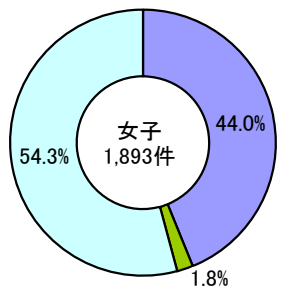
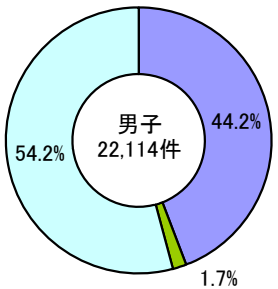
(4) 献立の種類について



(5) パン食の回数について



(6) 夕食の時間帯について

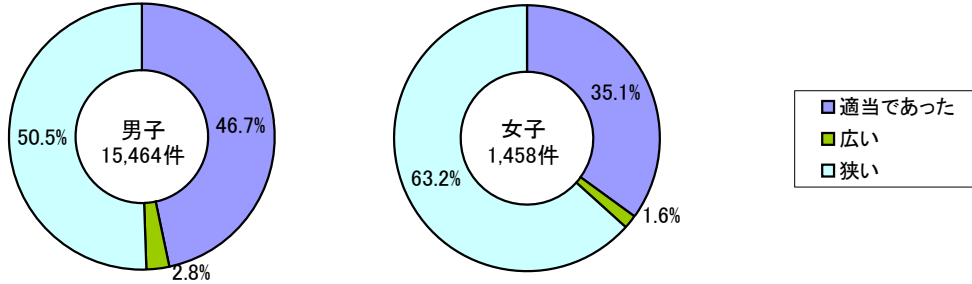


食事について、量は「丁度良い」とする回答が男子56.4%，女子56.0%を占めているが、質については「悪い」とする回答が男子、女子ともに4割程度であった。一方、女子は主食とおかずのバランスについて「主食を減らしておかずを増やしてほしい」とする回答が半数以上を占めている。
 この他に、「パン食の回数」について「少ない」とする回答が男子が約7割、女子が8割を、「夕食の時間帯」について「早い」とする回答が半数以上を占めた。

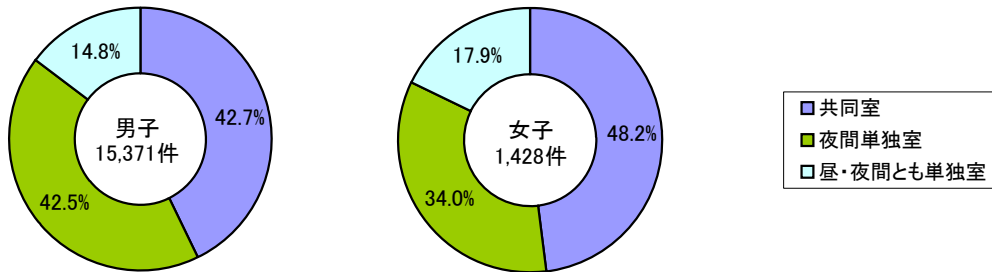
7. 居室について聞きます。それぞれ一つずつ選んでください。

(1) 主に共同室に長くいた人に聞きます。

ア 居室の自分のスペースの広さについて

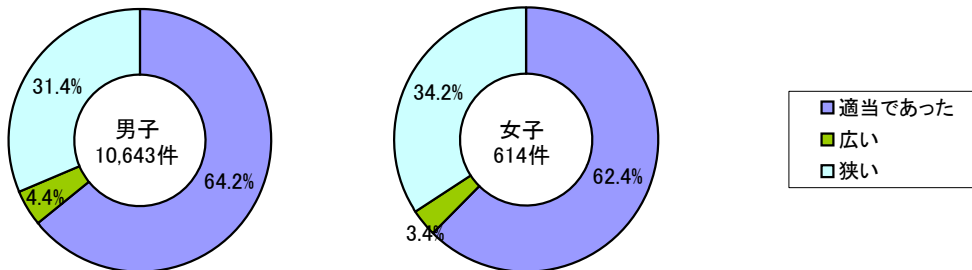


イ 希望する居室について

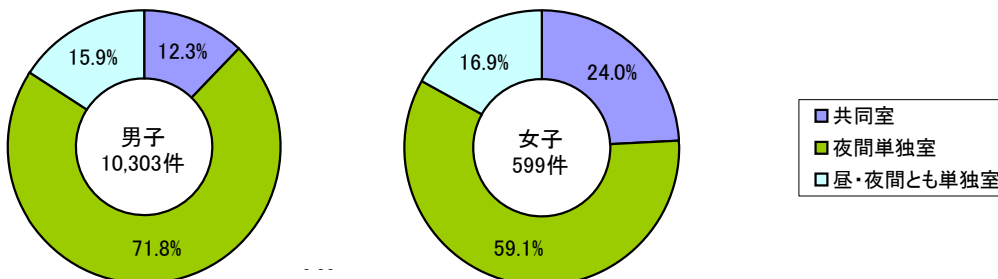


(2) 主に夜間単独室に長くいた人に聞きます。

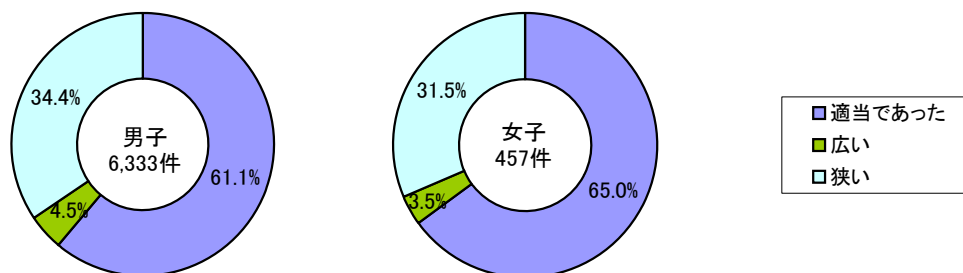
ア 居室の自分のスペースの広さについて



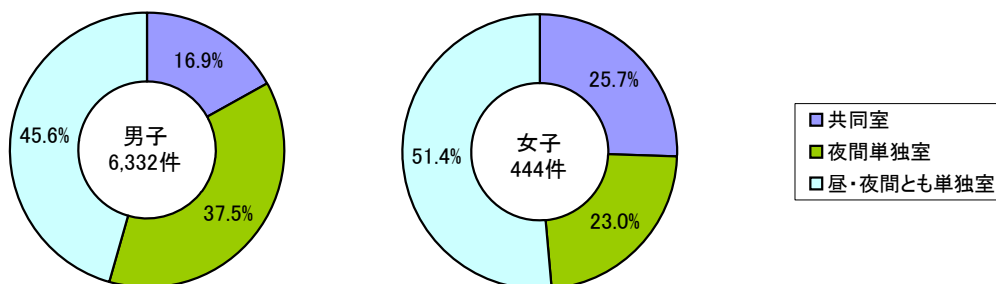
イ 希望する居室について



(3)主に昼・夜間とも単独室に長いた人に聞きます。
ア 居室の自分のスペースの広さについて



イ 希望する居室について



〈共同室に長いた人〉
「居室での自分のスペースが狭い」とする回答が男子50.5%、女子63.2%であったが、「希望する居室」として、「共同室」とした回答した者が男女とも4割以上を占めた。

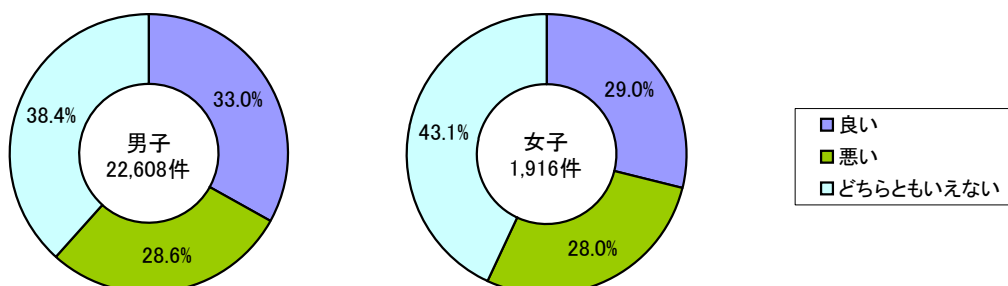
〈夜間単独室に長いた人〉
「居室での自分のスペースが適当である」とする回答が男子64.2%、女子62.4%であり、「希望する居室」も「夜間単独室」と回答した者が男子71.8%、女子59.1%と最も高かった。

〈昼夜間単独室に長いた人〉
「居室での自分のスペースが適当である」とする回答が男子61.1%、女子65.0%であり、「希望する居室」としては、男子は「昼・夜間とも単独室」、「夜間単独室」、「共同室」の順、女子は「昼・夜間とも単独室」、「共同室」、「夜間単独室」の順であった

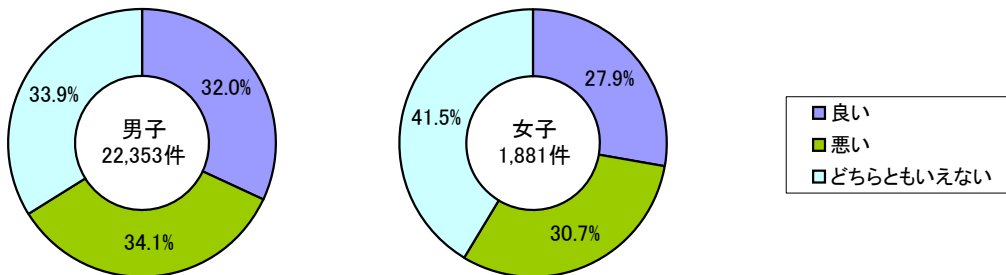
8. 衣類関係について聞きます。それぞれ一つずつ選んでください。

(1)居室における衣類(パジャマを除く)についてどう感じましたか。

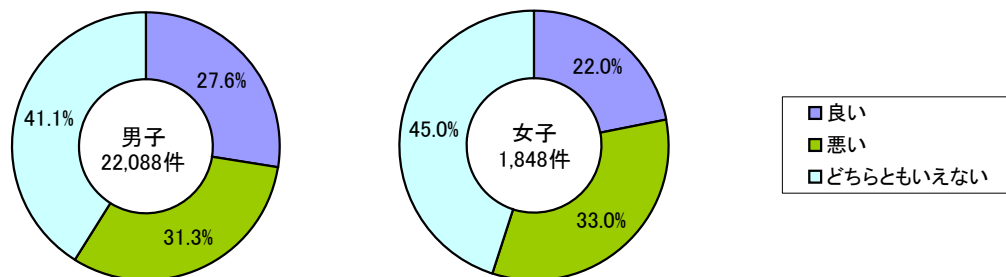
ア 素材について



イ 色について



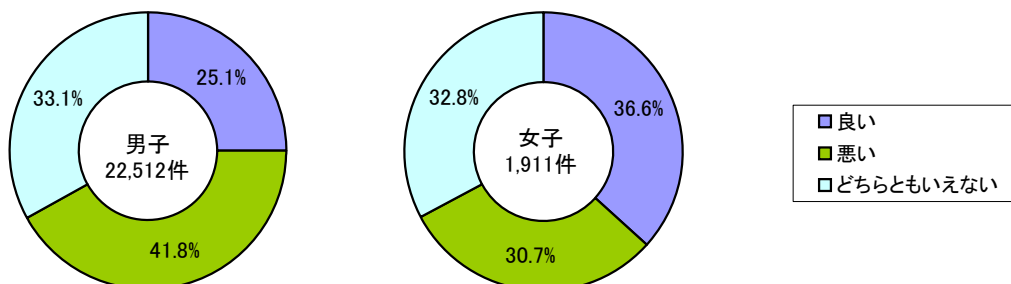
ウ デザインについて



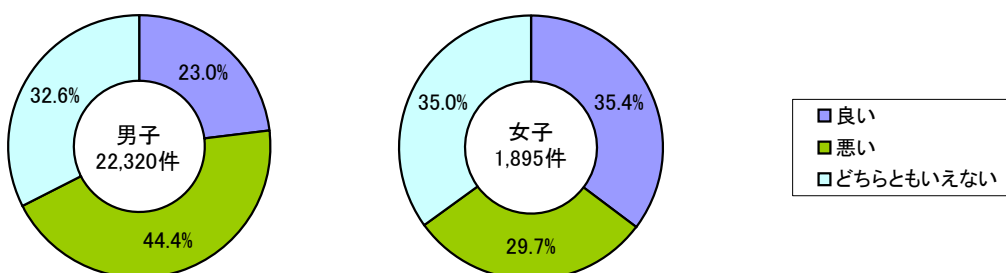
居室における衣類については、全体的に「良い」とする回答と「悪い」とする回答がほぼ同じ割合であった。デザイン、色について「悪い」が「良い」を若干上回っているが、素材については「良い」が「悪い」とする回答を上回った。

(2) パジャマについてどう感じましたか。

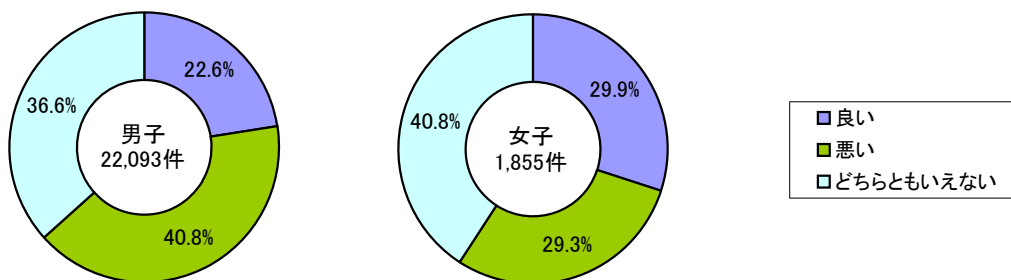
ア 素材について



イ 色について

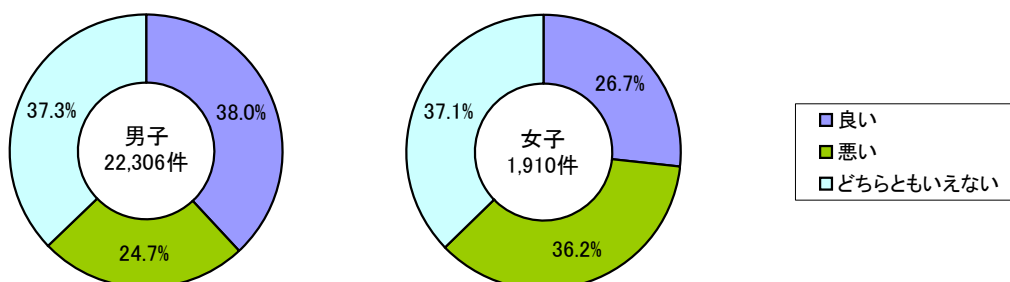


ウ デザインについて

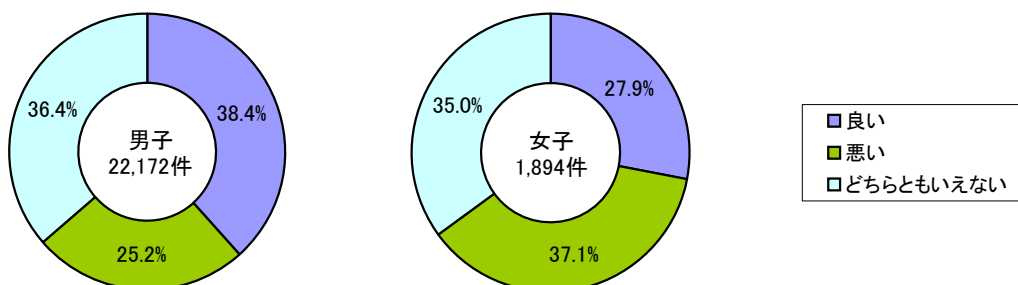


パジャマについて、男子は全体的に「悪い」とする回答が4割以上であった。女子は、素材と色については、「良い」とする回答が「悪い」とする回答の割合を上回っており、デザインについては、「良い」とする回答と「悪い」とする回答の割合がほぼ同じであった。

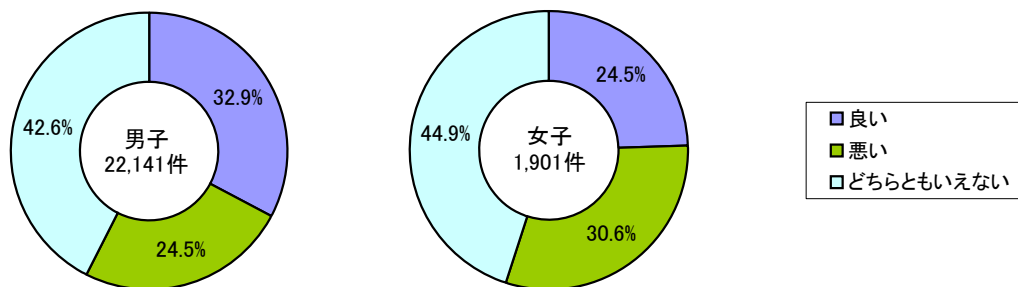
(3)工場における衣類についてどう感じましたか。
ア 素材について



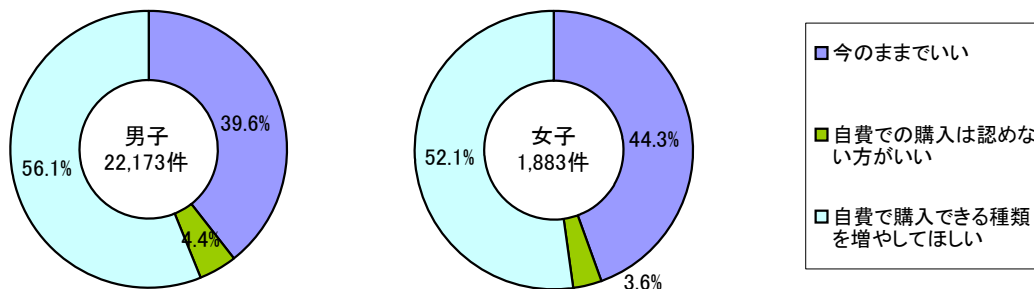
イ 色について



ウ デザインについて



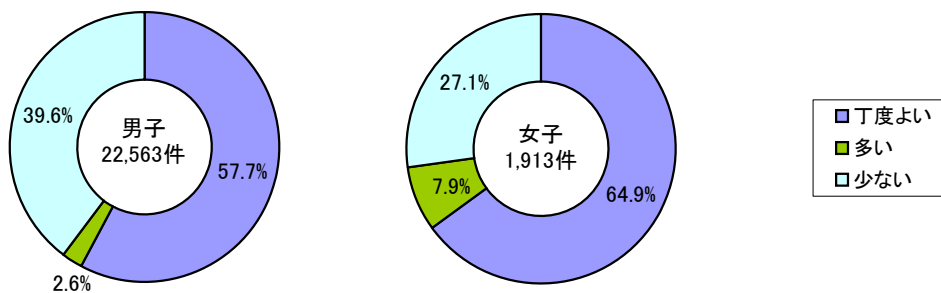
(4) 下着類の購入について



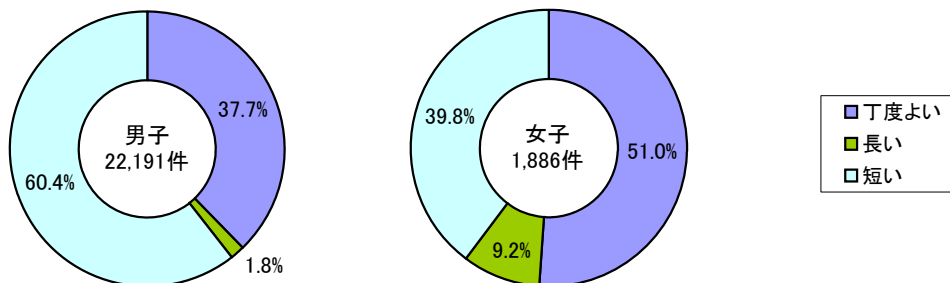
工場における衣類について、男子は、素材、色、デザインのいずれの項目についても、特段の傾向は見られない。一方、女子は、全体的に「悪い」とする回答が「良い」とする回答を上回っている。
 下着類の購入については、「今のままでいい」とする回答が男子39.6%、女子44.3%であるが、一方で、「自費で購入できる種類を増やしてほしい」とする回答が男女ともに半数以上を占めた。

9. 運動について聞きます。それぞれ一つ選んでください。

(1) 回数について

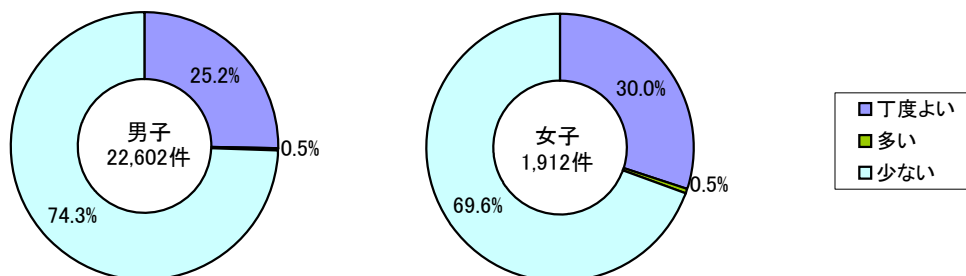


(2) 時間について

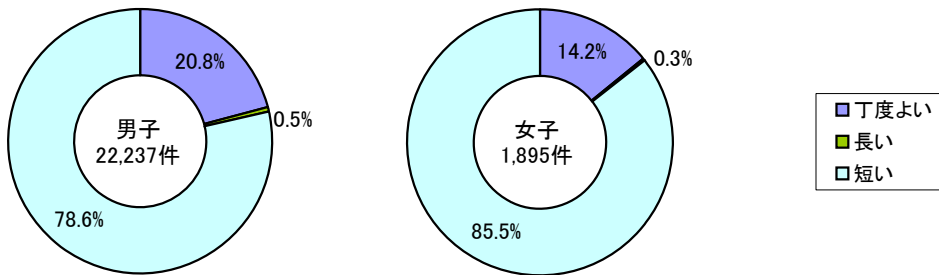


10. 入浴についてどう思いますか。それぞれ一つ選んでください。

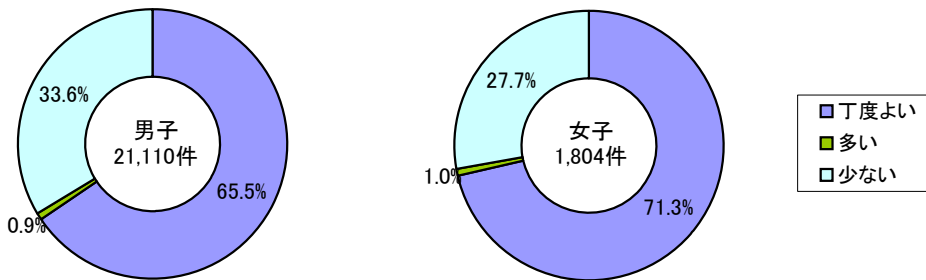
(1) 回数について



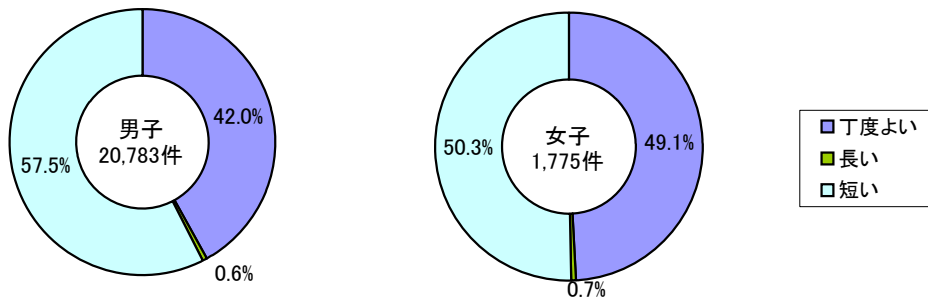
(2) 時間について



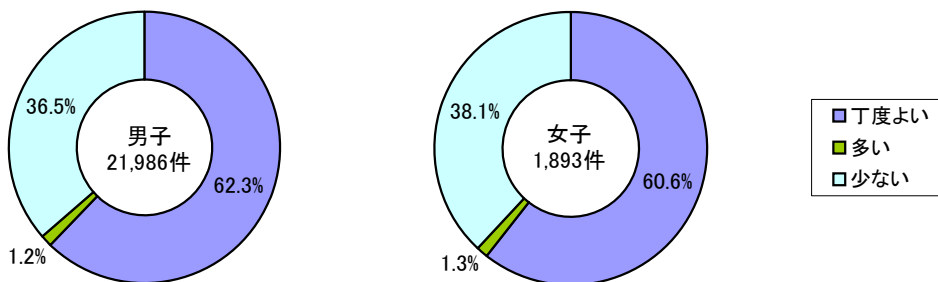
11. 面会についてどう思いますか。それぞれ一つ選んでください。
(1) 回数について



(2) 時間について

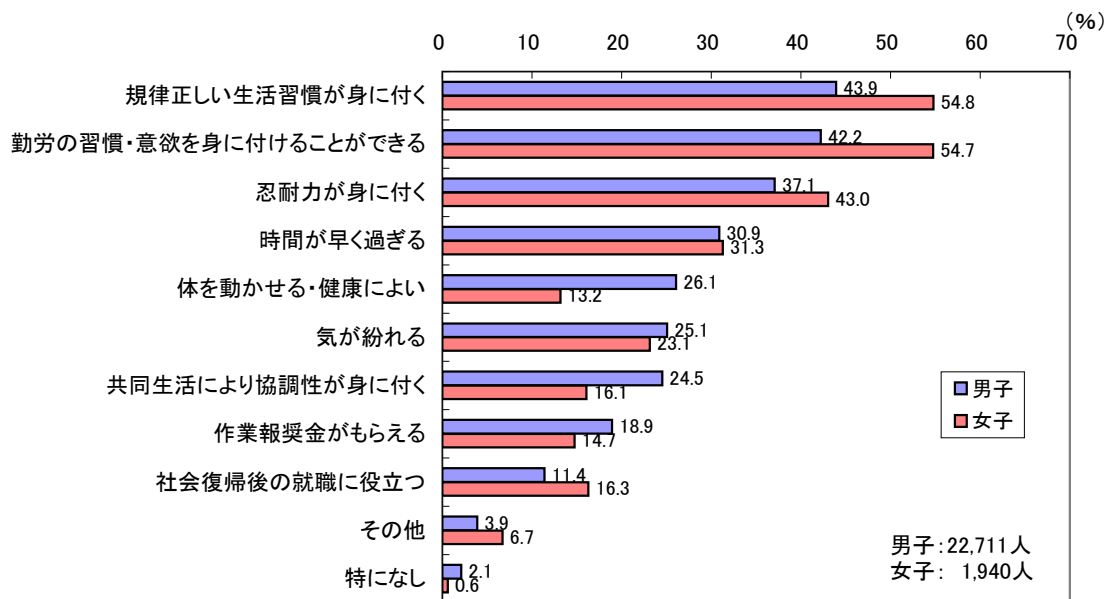


12. 信書(手紙)の発信回数についてどう思いますか。一つ選んでください。

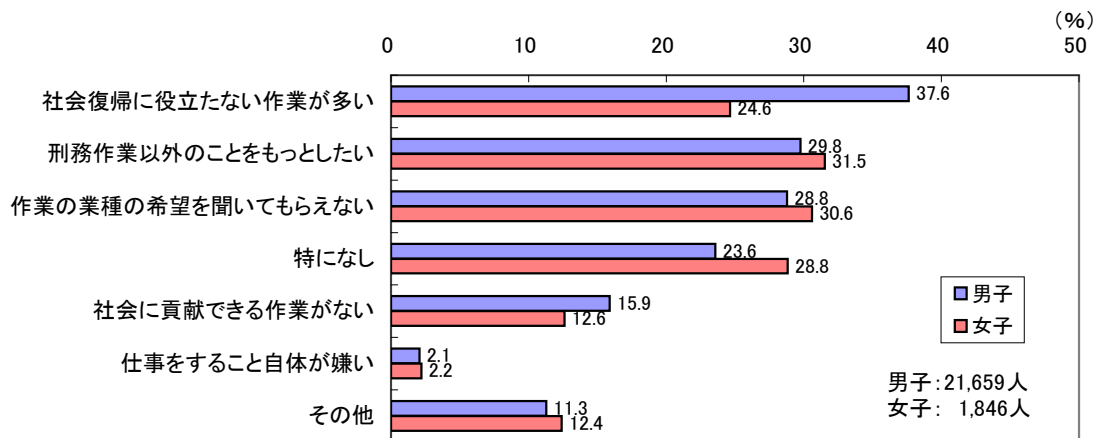


運動、面会、信書の発信のそれぞれの回数については、「丁度よい」とする回答が男子、女子とも6割程度を占めた。
入浴については、回数が「少ない」とする回答が男女共に7割を占め、時間についても「短い」とする回答が8割を占めている。
面会時間については、「短い」とする回答が男女共に5割程度であった。

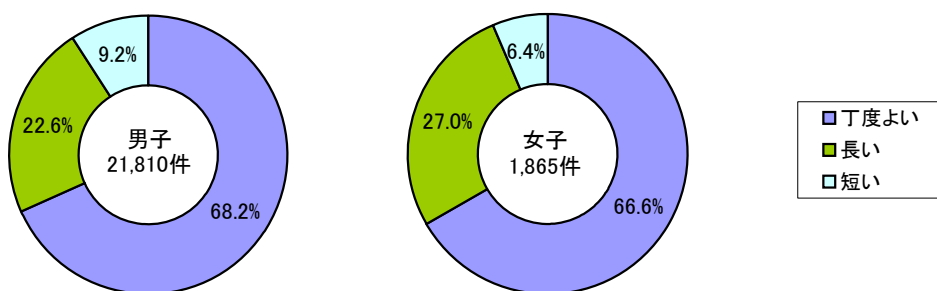
13. 刑務作業関係について聞きます。
 (1) 作業をして良かったこと(三つまで回答)



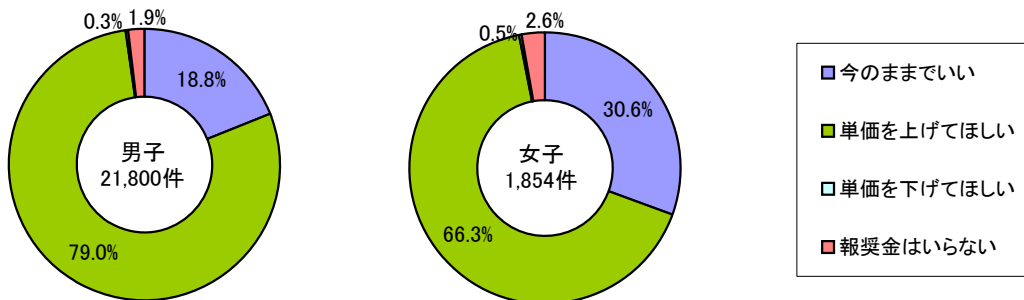
(2) 作業に関して不満な点(二つまで回答)



(3) 作業時間について



(4) 作業報奨金について



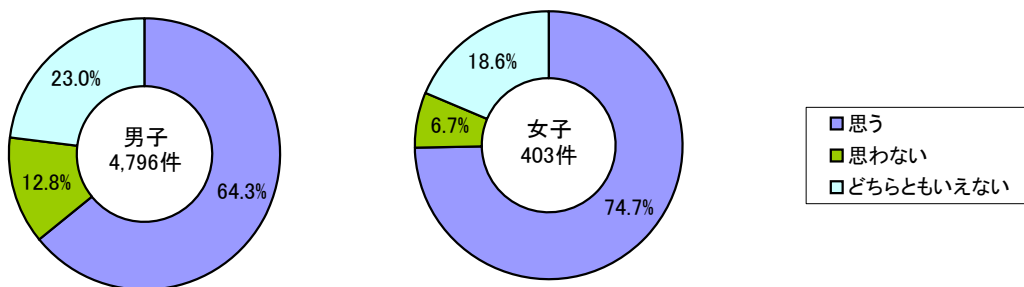
〈刑務作業をして良かったことについて〉
 刑務作業をして良かったこととして、男女ともに、「規則正しい生活習慣が身に付く」、「勤労の習慣・意欲を身に付けることができる」、「忍耐力が身に付く」とする回答が多かった。

〈刑務作業に関して不満な点について〉
 刑務作業に関して不満な点について「社会復帰に役立つ作業が多い」が、男子37.6%が最も多く、女子は「刑務作業以外のことをもっとしたい」が31.5%と最も多かった。男子は次に「刑務作業以外のことをもっとしたい」が29.8%で多く、女子は「作業の業種の希望を聞いてもらえない」が、30.6%で多かった。

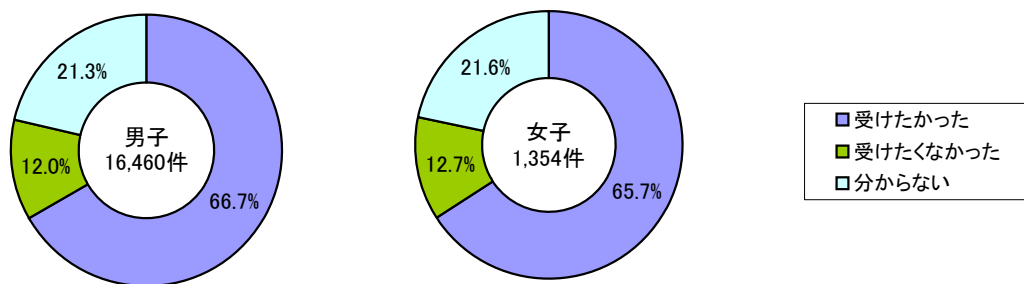
〈作業時間及び作業報奨金について〉
 作業時間について、「丁度よい」とする回答の割合は、男子68.2%、女子66.6%と、「長い」又は「短い」を大きく上回っている。
 作業報奨金については、「単価を上げてほしい」とする回答が男女ともに最も多いが、その割合は、男子79.0%、女子66.3%であった。「今のままでいい」とする回答は、男子が18.8%であったのに対し、女子は30.6%であった。

14. 職業訓練関係について聞きます。

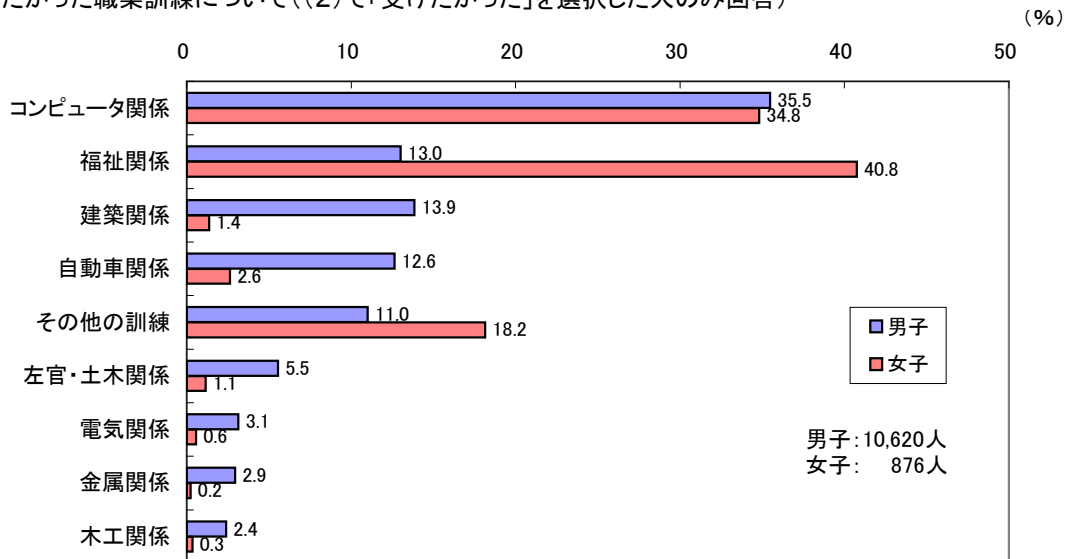
(1) 職業訓練を受けたことが社会復帰に役立つと思うかについて(職業訓練を受けた人のみ回答)



(2) 職業訓練を受けたいと思うかについて(職業訓練を受けなかった人のみ回答)



(3) 受けたかった職業訓練について((2)で「受けたかった」を選択した人のみ回答)



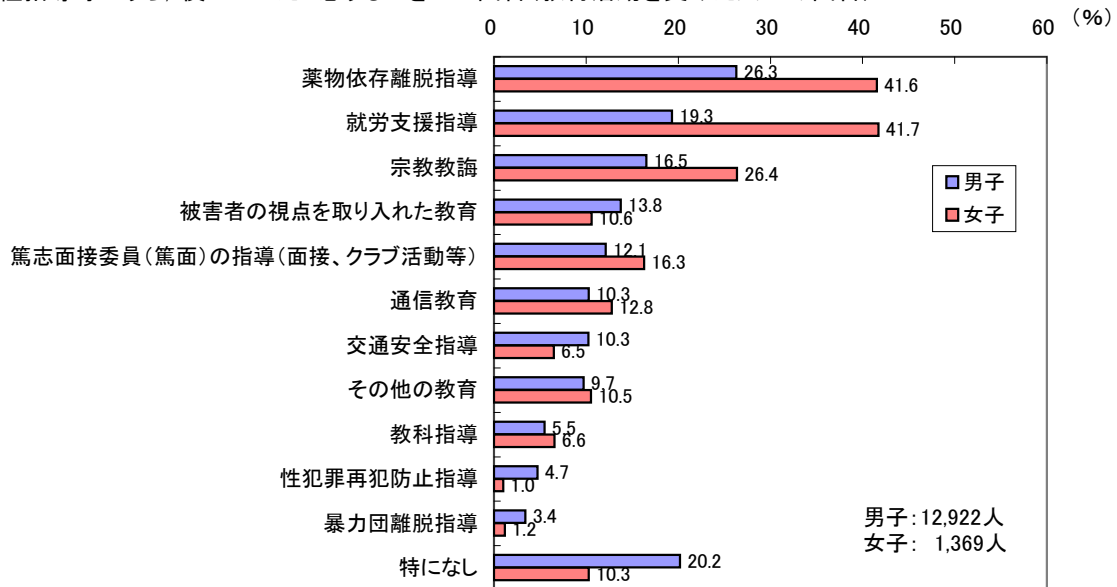
職業訓練を受けた人のうち、「職業訓練を受けたことが社会復帰に役立つ」と回答した割合は、男子64.3%、女子74.7%であった。

職業訓練を受けなかった人についても、「職業訓練を受けたかった」とする回答の割合は、男子66.7%、女子65.7%と6割以上を占めた。

また、受けたかった職業訓練として、男子は「コンピューター関係」と回答した割合が35.5%と最も高く、これに続いて「建築関係」(13.9%)、「福祉関係」(13.0%)となった。一方、女子は「福祉関係」と回答した割合が40.8%と最も高く、これに続いて「コンピューター関係」(34.8%)であり、この二つで全体の7割強を占めた。(なお、「受けたかった職業訓練」に関しては、項目「14(2)」で「職業訓練を受けたかった」とした者のみが回答するべきところ、それ以外の者も回答している。)

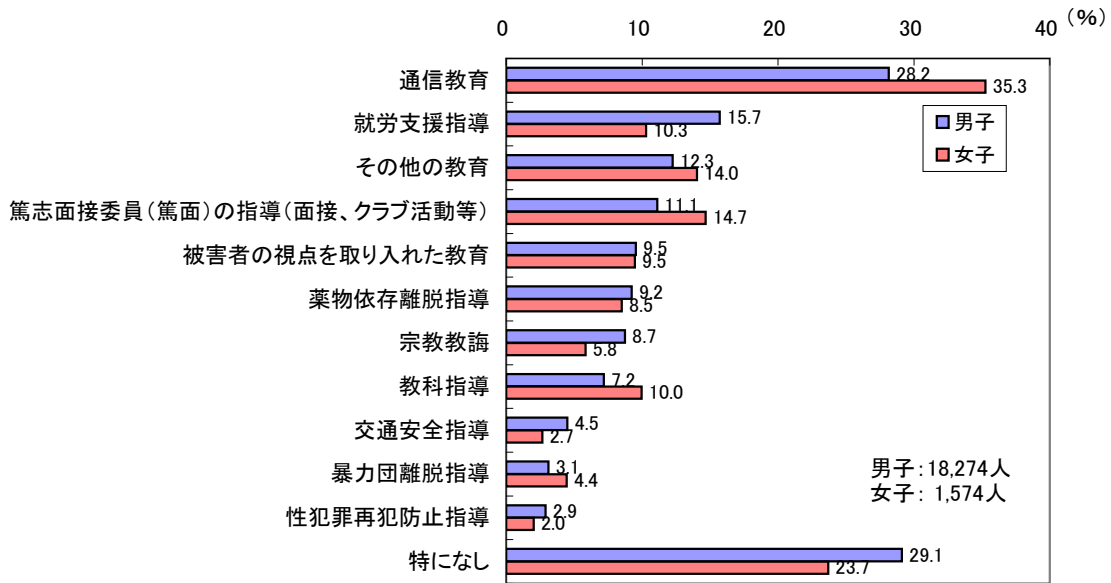
15. 教育関係について聞きます。

(1) 各種指導等のうち、役に立ったと思うものを全て回答(教育活動を受けた人のみ回答)

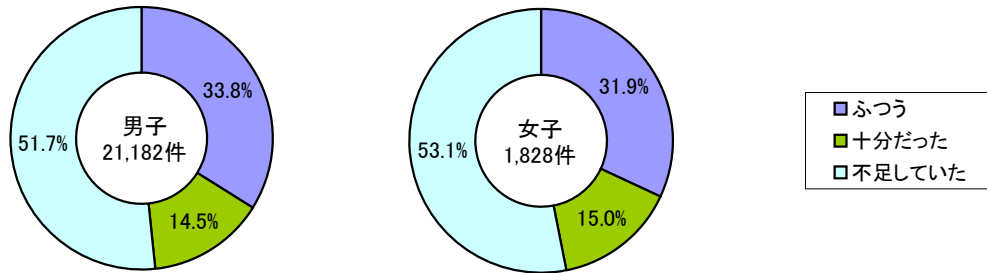


(注) 暴力団離脱指導及び性犯罪再犯防止指導が役に立ったと回答している女子が若干名いるが、同指導については、女子には実施していない。

(2) 受けてみたかった各種指導等について(二つまで回答)



(3) 図書(施設に備え付けの書籍)の種類について

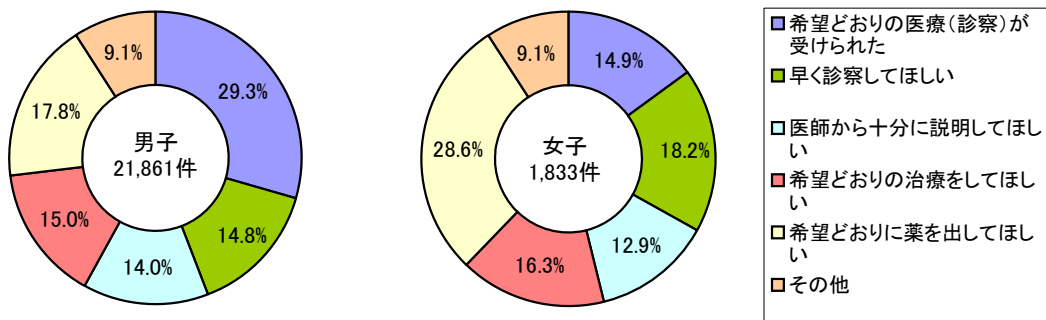


役に立ったと思う各種指導等として、男子は「薬物依存離脱指導」(26.3%)とする回答が最も多く、女子は「就労支援指導」(41.7%)とする回答が最も多かった。

次いで、女子は「薬物依存離脱指導」(41.6%)、「宗教教誨」(26.4%)が続いたが、男子は「特になし」(20.2%)、「就労支援指導」(19.3%)であった。受けてみたかった各種指導等として回答が最も多かったのは、男子は、「特になし」(29.1%)であり、次いで「通信教育」(28.2%)、「就労支援指導」(15.7%)と続いた。女子は、「通信教育」(35.3%)が最も多く、次いで「特になし」(23.7%)、「篤志面接委員(篤面)の指導(面接、クラブ活動等)」(14.7%)であった。

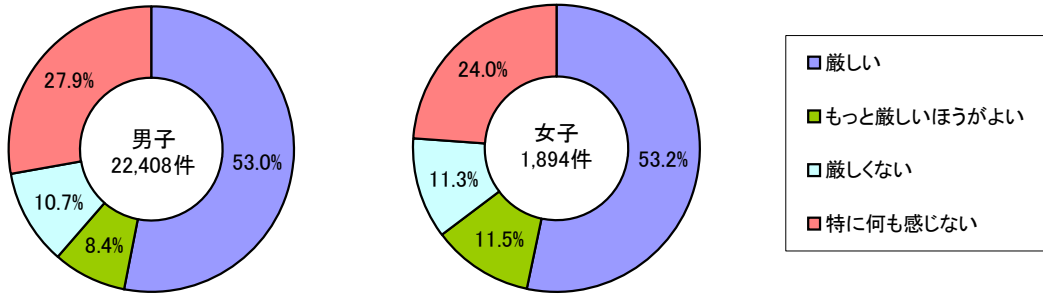
備付書籍の種類については、「不足していた」が男女ともに5割以上を占めた。

16. 医療関係について聞きます。施設内の医療(診察)について、どのように思いますか。一つ選んでください。

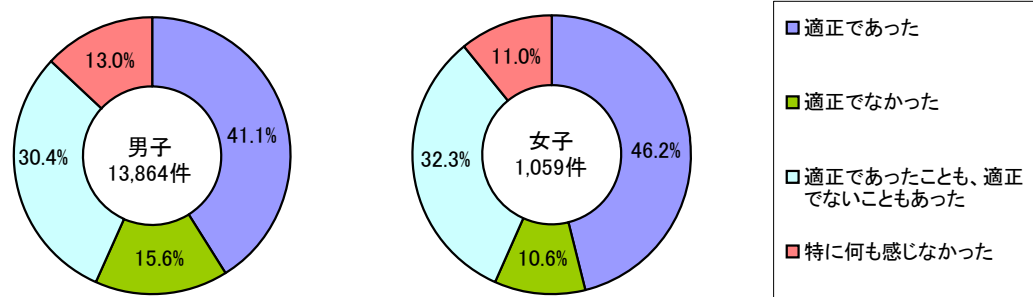


刑事施設内の医療について、男子は「希望どおりの医療(診察)が受けられた」とする回答が29.3%と最も多かったが、「早く診察してほしい」、「医師から十分に説明してほしい」等何らかの要望がある者は、男子61.5%、女子76.1%であった。特に、女子で「希望どおりに薬を出してほしい」と要望する者が28.6%と多かった。なお、「希望どおりの医療が受けられた」と回答した女子は16.4%であった。

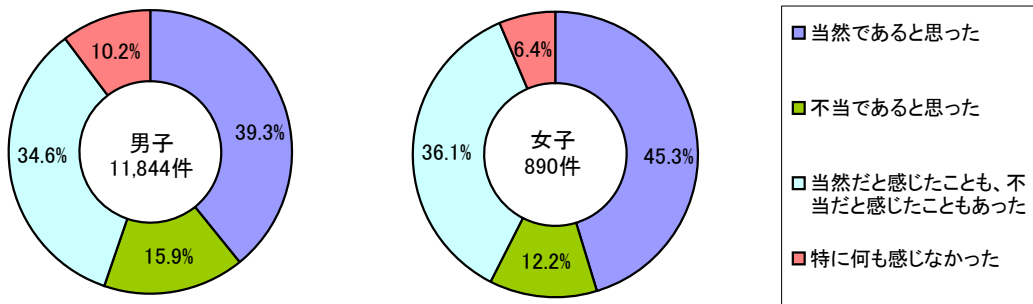
17. 施設の規則(きまり)についてどう思いましたか。一つ選んでください。



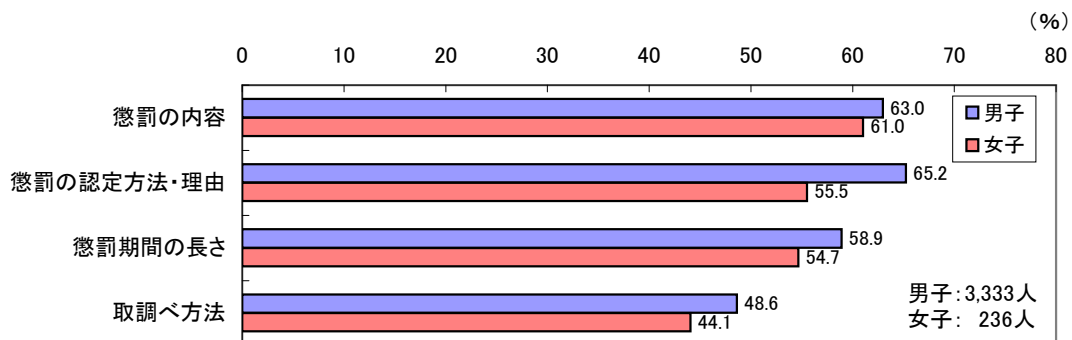
18. 取調べ関係について聞きます。反則行為として取調べを受けたことがある人に聞きます。取調べについてどう感じましたか。一つ選んでください。



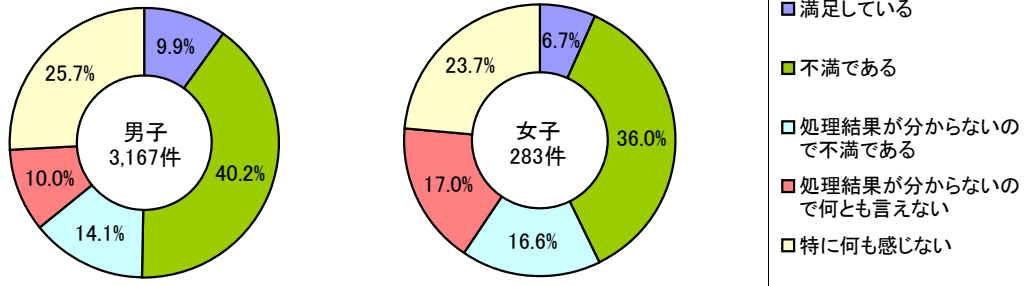
19. 懲罰関係について聞きます。懲罰を受けたことがある人に聞きます。(1) 懲罰についてどのように感じたか



(2) 懲罰に関して不当だと思うことについて(該当すると思うものを全て回答)

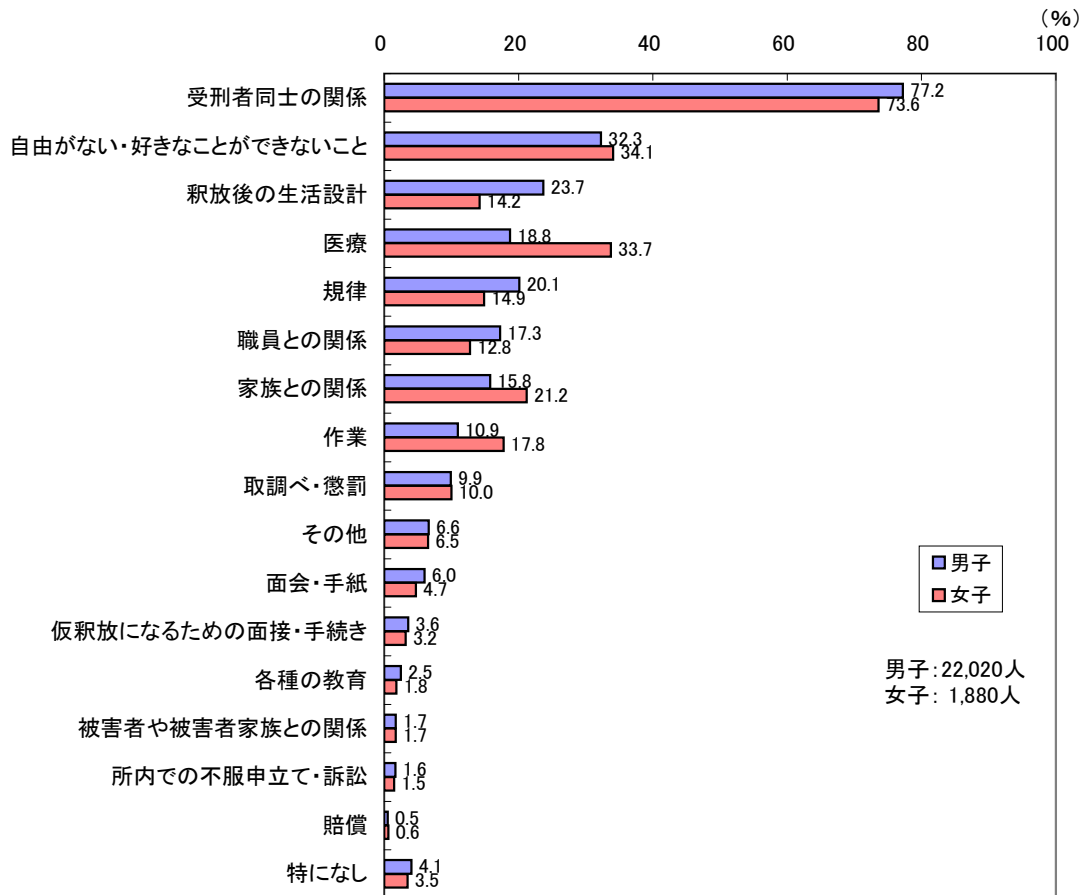


20. 不服申立て関係について聞きます。
 不服申立てをしたことがある人に聞きます。不服申立ての結果についてどう思っていますか。一つ選んでください。



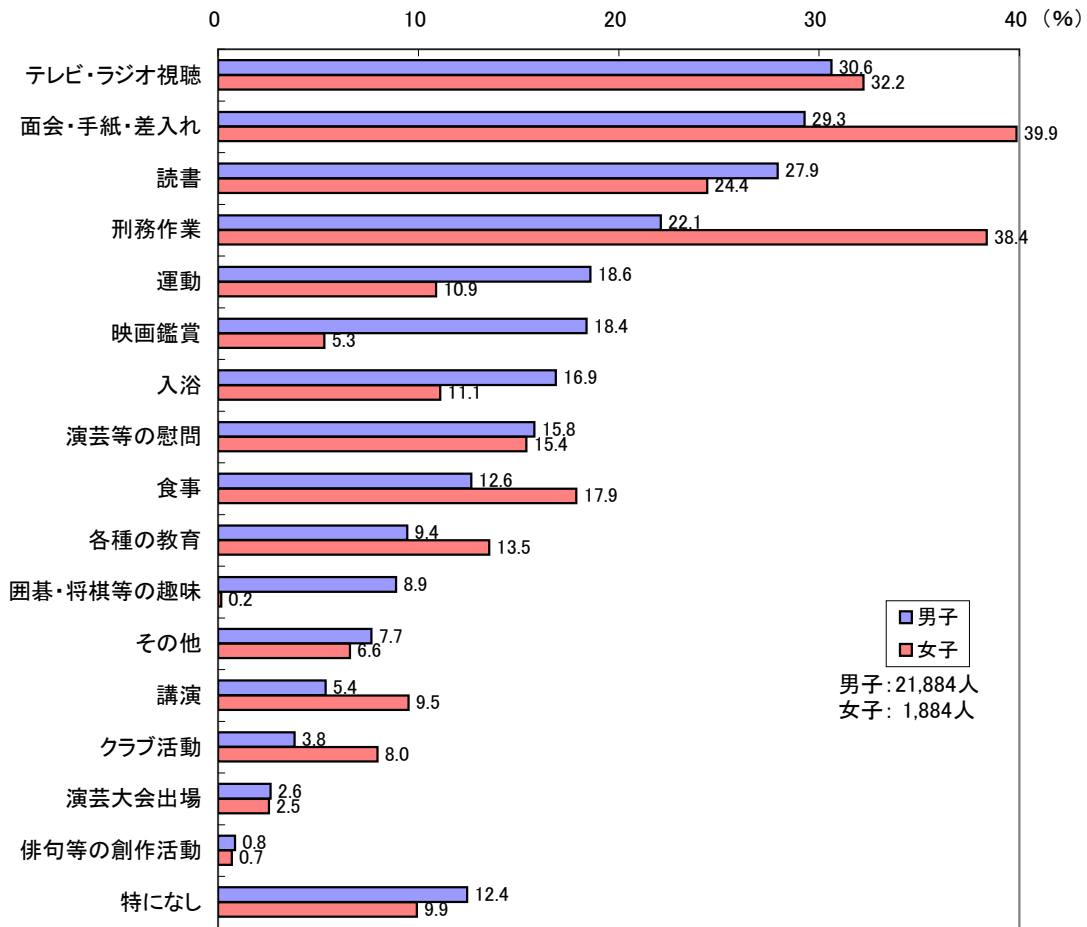
刑務所内の規則について、「厳しい」とする回答は、男子53.0%、女子53.2%であった。
 取調べについて、反則行為として取調べを受けたことのある人を対象に質問したところ、取調べについて「適正であった」とする回答は男子41.1%、女子46.2%、「適正ではない」とする回答は男子15.6%、女子10.6%であった。
 懲罰関係について、懲罰を受けたことのある人を対象に質問したところ、「当然であると思った」が男子が39.3%、女子45.3%であり、「不当であると思った」とする回答が男子15.9%、女子12.2%であった。なお、不当だと思うことについて質問したところ、男子は「懲罰の認定方法・理由」が65.2%と最も多く、次いで「懲罰の内容」、「懲罰期間の長さ」の順になっている。女子は「懲罰の内容」が最も多く、次いで「懲罰の認定方法・理由」、「懲罰期間の長さ」の順になっている。
 不服申立ての結果について、不服申立てをしたことのある人を対象に質問したところ、「満足している」が男子9.9%、女子6.7%であったのに対し、「不満である」が男子40.2%、女子36.0%であった。
 「処理結果が分からないので不満」または「処理結果が分からないので何とも言えない」との回答は、男子35.7%、女子40.6%であった。

21. 受刑生活関係について聞きます。
 (1) 受刑生活で苦勞したと思うこと(三つまで回答)



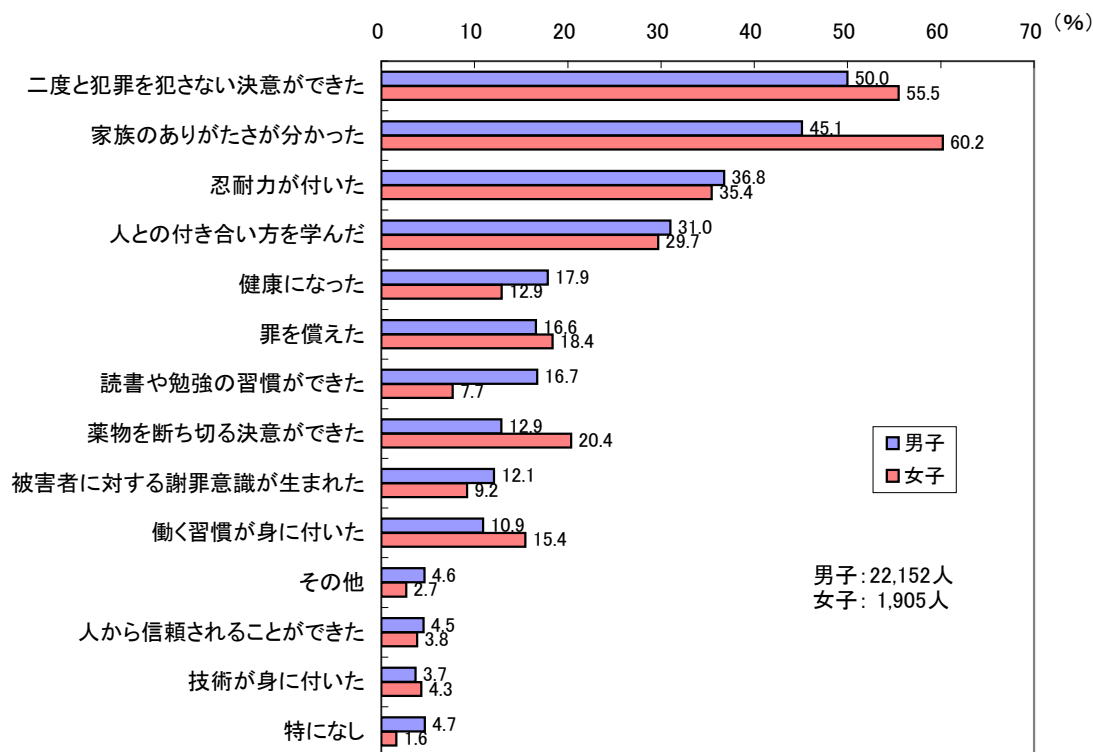
受刑生活で苦労したこととして、男女ともに「受刑者同士の関係」とする回答が最も多く、男子77.2%、女子73.6%であった。これに次いで、男子は「自由がない・好きなことができないこと」(32.3%)、「釈放後の生活設計」(23.7%)であり、女子は「自由がない・好きなことができないこと」(34.1%)、「医療」(33.7%)であった。

(2) 受刑生活で良かったと思うこと(三つまで回答)



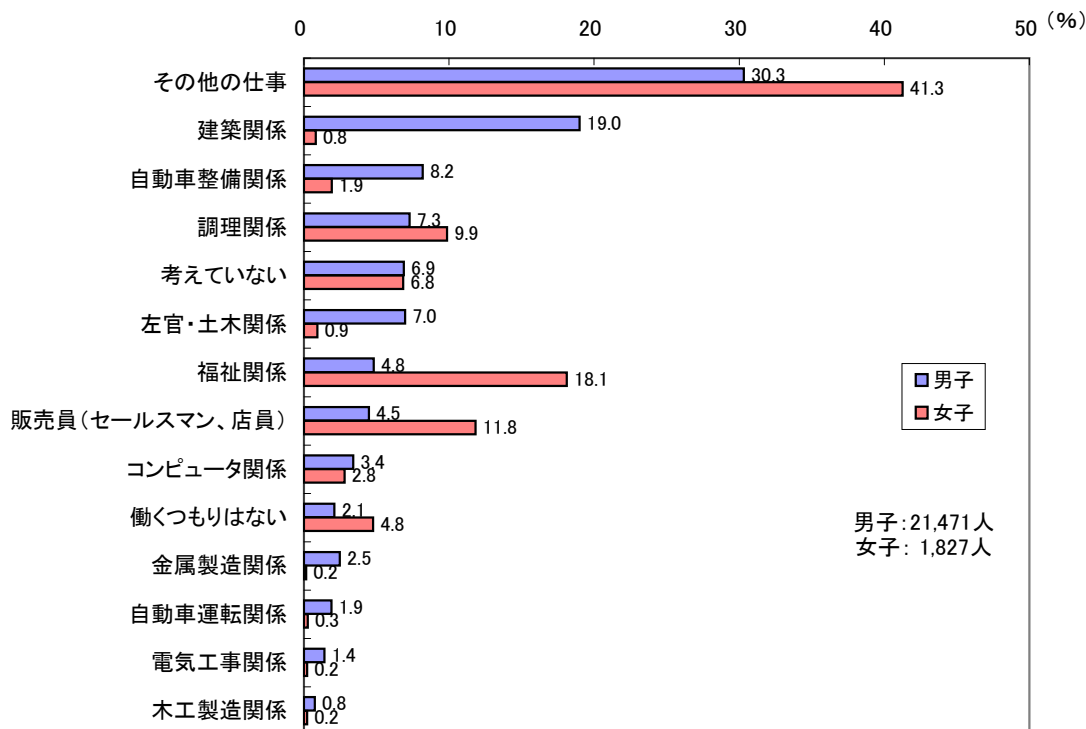
受刑生活で良かったこととして、男子は、「テレビ・ラジオ視聴」(30.6%)、「面会・手紙・差入れ」(29.3%)、「読書」(27.9%)の順に、また、女子は、「面会・手紙・差入れ」(39.9%)、「刑務作業」(38.4%)、「テレビ・ラジオ視聴」(32.2%)の順に回答が多かった。

(3) 受刑生活で得られたもの(三つまで回答)



受刑生活で得られたこととして、男子は「二度と犯罪を犯さない決意ができた」とする回答が50.0%と最も多く、次いで「家族のありがたさが分かった」(45.1%)、「忍耐力が付いた」(36.8%)であった。一方、女子は「家族のありがたさが分かった」とする回答が60.2%と最も多く、次いで「二度と犯罪を犯さない決意ができた」(55.5%)、「忍耐力が付いた」(35.4%)であった。
また、「罪を償えた」とする回答は男子16.6%、女子18.4%、「被害者に対する謝罪意識が生まれた」とする回答は男子12.1%、女子9.2%であった。

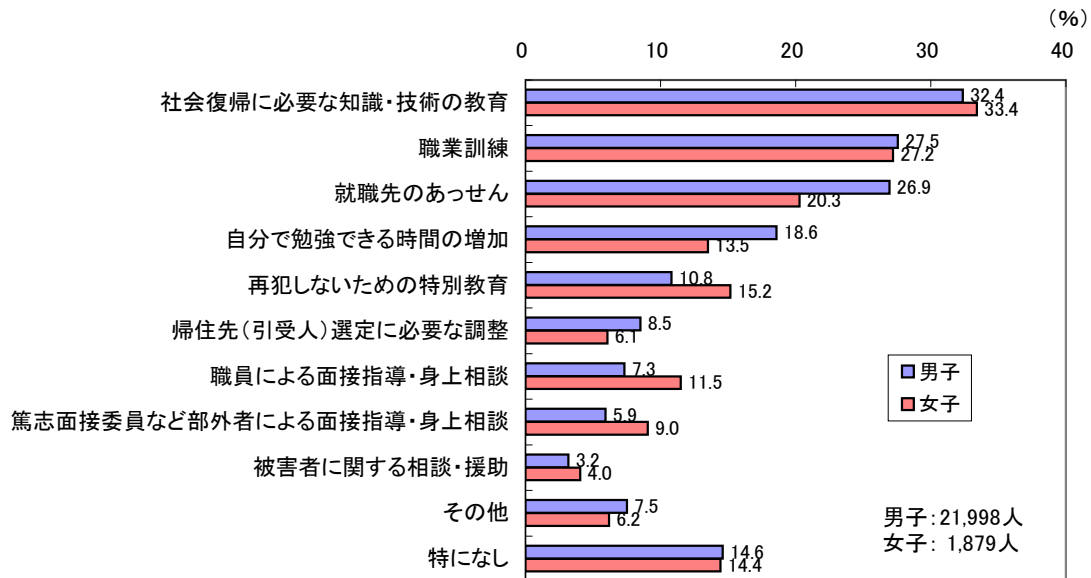
22. 出所後に就きたい(就くつもり)の仕事は何ですか。一つ選んでください。



出所後に就こうと思っている業種について、男子は「その他仕事」とする回答が最も多く、30.3%であった。次いで回答が多かったのが「建築関係」(19.0%)、「自動車運転関係」(8.2%)となっている。一方、女子も「その他仕事」とする回答が最も多く、41.3%であった。次いで回答が多かったのが「福祉関係」(18.1%)、「販売員(セールスマン、店員)」(11.8%)であった。

また、「考えていない」及び「働くつもりはない」の合計は、男子9.0%、女子11.6%となっている。

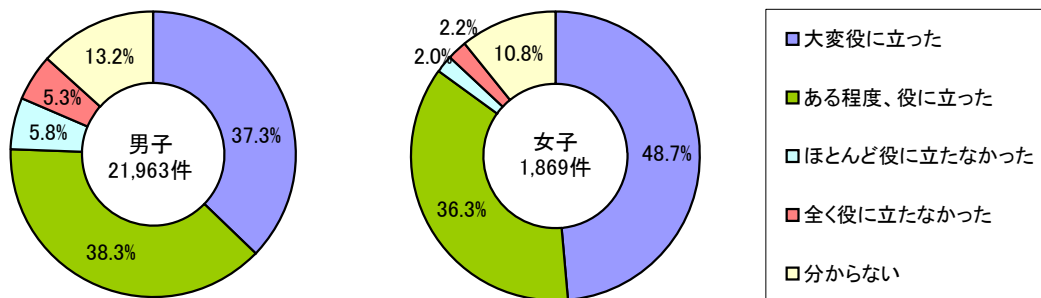
23. 出所後の生活のために刑務所でしてほしいことは何ですか。二つまで選んでください。



出所後の生活のために刑務所でしてほしいことについて、男女ともに「社会復帰に必要な知識・技術の教育」が最も多く、男子32.4%、女子33.4%であった。次いで「職業訓練」男子27.5%、女子27.2%、「就職先のあっせん」男子26.9%、女子20.3%の順となっている。

また、「再犯しないための特別教育」とする者は、男子10.8%、女子15.2%であった。

24. 最後に聞きます。あなたにとって刑務所は役に立ちましたか。一つ選んでください。



自分にとって刑務所が役に立ったかという質問に対して、「大変役に立った」又は「ある程度、役に立った」とする回答が、男子75.6%、女子85.0%であった。

これに対し、「ほとんど役に立たなかった」又は「全く役に立たなかった」とする回答は、男子11.2%、女子4.3%となっている。